



いいで町

特別号

議会だより

町制施行65周年記念事業

いいで子ども議会特集



希望の見えるまちをつくるために 町内小中学生代表が町長に提案



議会だよりに
アクセス!



録画中継を
確認できます

- おおはらこうじろう
- ◆ 議長を務めて思うこと 大原滉二郎議長（飯豊中）…………… P 2
 - ◆ 一般質問

<p>◇ 9番 <small>たかはしゆうき</small> 高橋優希議員（飯豊中）</p> <p>◇ 1番 <small>すずきかなと</small> 鈴木奏斗議員（第一小）</p> <p>◇ 7番 <small>あんなか しょう</small> 安仲 翔議員（添川小）</p> <p>◇ 6番 <small>おおかわらかい</small> 大河原魁議員（手ノ子小）</p> <p>◇ 8番 <small>よこさわそうすけ</small> 横澤蒼祐議員（添川小）</p>	<p>◇ 2番 <small>ひぐちももか</small> 樋口桃佳議員（第一小）………… P 3</p> <p>◇ 3番 <small>にいぬまあやと</small> 新沼絢斗議員（第二小）………… P 4</p> <p>◇ 5番 <small>いのうえあゆむ</small> 井上歩武議員（手ノ子小）… P 5</p> <p>◇ 4番 <small>ほりえ はな</small> 堀江笑永議員（第二小）………… P 6</p> <p>◇ 10番 <small>たかはしりょうた</small> 高橋瞭太議員（飯豊中）………… P 7</p>
--	--
 - ◆ 子ども議会を終えて…………… P 8

若者が希望の見える町に

いい子ども議会

小中学生の思いを町長へ

子ども議会を開催

実行委員長
議会議長

菅野富士雄

昭和33年、飯豊村に中津川村が編入合併し飯豊町が誕生。昨年65周年を迎え、記念事業として11月30日に『いい子ども議会』を開催しました。

当日は議場において子ども議員が、町長に対して自分の意見を堂々と述べました。

各小中学校では学年や学校全体で町の課題を学習し、どうしたら若い人がこの町で希望をもって生活できるのかを話し合い、提案事項を決めたということでした。関係された多くの皆様方に厚く感謝申し上げます。

今後、議会として子ども議員の提案を実現できるように取り組んでまいります。

議長を務めて思うこと



飯豊中学校 3年

大原 澁二郎

僕は、この度の子ども議会において議長を務めました。その中で幾つか大切なことを学びました。

まず一つに、議長の役割の大きさを実感しました。質問者も答弁者も議長から発言の許可をもらい、発言や答弁をしなければなりません。議事が滞ることなく進行するために、すべての進行を議長に委ねている上で成り立っていることを自覚することが大事だと思います。

二つ目は、質問や提案する場合は、客観的なデータをもとに説明しながら相手を説得するというこの大切さを実感しました。今回の子ども議会では、アンケート調査や実例、実体験を根拠として自分の考えをまとめていました。このおかげで素直に納得することが多かったです。

三つ目は、議長は大きな声で分かりやすく話すことが大切で、そのことが議会全体のスムーズな進行につながるのではないかと思いましたが、当たり前のことですが、このことが一番大切なことではないかと思いました。

今回の経験や学びを生かすためにも、他の人の立場に立って考えることを継続していきたいです。



町の課題を資料で説明



多くの傍聴者に見守られて



議長を務める大原澁二郎君



傍聴いただいた先生と



実行委員長のあいさつ



町長の答弁を聞く議員

町の自然を活用した観光事業 未知の観光スポットに光を

町長

住民と協力し町観光素材の
新たな魅力を発掘したい

町の自然や魅力を知
ってもらうためには

質問

水没林のカヌー
体験、源流の森の森林
体験等、若い世代に焦
点を当て、一年を通じ
て町の自然や魅力を知
ってもらえる取り組み
を、さらにすすめるべ
きではないか。

町長 町には、歴史、
文化、伝統があり、他
にもたくさん魅力的
な観光素材がある。

魅力が伝わりづらい
件については、地域の
方や関係者と協力して
観光素材が持っている
魅力の発揮・発信を図
りたい。



水没林を活用した体験

若い世代に焦点を当
てて取り組んでは

再質問

若い世代の方
を対象としてこの町に
しかない自然体験事業
のような取り組みを計
画した場合、どれくら



飯豊中学校 3年
高橋優希議員

いの効果があるのかを
試す価値があるのでは
ないか。それらのこと
を、町の小中生が一緒
に考えていきたいと思
うが。

町長 新鮮な感覚を持
った若い世代の皆さん
が、どんなことを町の
魅力として考えている
のか、ぜひ話し合っ
て教えていただきたい。

議員からのご質問

観光は町の重要な
産業です。町の観光
や交流・体験事業な
どの取り組みに若い
人が関わってくれた
ら、町はもっと元気
になると思います。

町民の利便性の向上 町のPRを目的に 特産物を使った朝市を

町長

定期的な朝市の開催により
特産物の販売促進に期待

朝市で町を活性化

質問

小売店が少ない
ため買い物の不便さを
解消するとともに、町
外からも多くの人が集
まるよう、特産物を使
った朝市を開催しては
どうか。

町長 定期的な朝市を
開催することにより、
特産物の販売促進に繋
がるとともに、町内外
の方に飯豊の魅力を知
ってもらえる。現在、

しらさぎ荘では定期的
に朝市を開催している
が、あくすや各地区ま
ちづくりセンターでの
開催も可能かと思うの
で、検討していきたい。



あ〜すでの朝市の様子

インターネットで
情報の提供を

再質問

多くの人に朝
市で買い物をしてもら
う必要がある。各家
庭にインターネットが普
及しているの、ユー
チューブなどの動画サ
イトやラインなどのS



第一小学校 6年
樋口桃佳議員

NSを活用してイベ
ント情報を発信する方
法もあるのではない
か。

町長 新聞折り込みや
回覧板、広報などは
十分に伝わらないこ
ともある。提案いた
だいた動画サイトや
SNSを使って情報を
発信することは可能
かと思う。朝市の
主催者などにも
働きかけをしていく。

議員からのご質問

町や町民の課題を
良く理解しての質問
だと思えます。開催
規模は小さくても回
を重ねれば、特産物
の販売促進に繋がる
と思います。

空き校舎を ホテル・レストランに

町長

町の魅力発信や集客施設に活用したい

空き校舎の活用でまちづくりを

質問 人口減少が町の課題である。観光客を増やし、町の魅力を知ってもらうに移住してもらうためにも、義務教育学校の開校に伴って閉校となる校舎を「ホテル、レストラン」に活用してはどうか。

町長 空き校舎をホテルやレストランに活用することは、町の魅力の発信や集客に繋がるものと思っている。全国的な廃校活用の実例や本町が考える活用案として農村歴史資料館、図書館、コワーキング

スペースが入る複合多目的施設、カフェなどをふまえ、今後の町を創りあげていく方々から意見を聞いて検討していきたい。

町民からの意見をどのように聞くか

再質問 町民がどのような施設を希望しているのか、アンケートを取るべきだと思う。

インターネットも活用し広く意見を聞いてみてはどうか。

町長 空き校舎の活用は、様々な方法で意見を聞いてすすめていきたい。まちづくりセンターなどでも多くの



第一小学校 6年
鈴木 奏斗 議員

方々の協力を頂き、地域で必要なものは何かも検討したい。



空き校舎の活用を

議員からひとこと

空き校舎がホテルやレストランとして活用されている事例もあり、すぐ良いアイデアだと思います。多くの方が来町され賑わいのある町になると思います。

災害時の効果的な 情報伝達手段は

町長

複数の方法で伝えて安全を確保

防災無線活用を提案

質問 私たちは昨年8月3日に大きな災害を経験したが、私たちは何が起こっているのか分からなかった。そこで、防災無線を設置することを提案したい。

町長 あの豪雨の際は、線状降水帯が発生し百年に一度という雨が降った。住民には情報を正確に早く知らせることが重要だ。防災無線スピーカーは豪雨の中では聞こえないこともあり、町では各家庭に『防災ラジオ』を配布している。さらに、フェイスブックやライ

ンを使って情報を発信している。

防災ラジオでは伝わらないことも

再質問 『防災ラジオ』は、私のクラスでは9人中4人しか知らなかった。防災ラジオの取り組みを町民に知ってもらうためにどのような方法があるか。また、外にいる人にはどのように伝えるのか。

町長 防災ラジオは4年前に配布した。その際公民館等で説明会を行ったが、戸外の人たちへの伝達はスマートフォンを活用するという方法を説明した。さ

らに広報車が出動してスピーカーで呼びかけている。



第二小学校 6年
新沼 絢斗 議員



情報機器を併用して発信

議員からひとこと

令和4年8月の豪雨では大水の怖さを実感しましたね。命を守るため、適切な防災機器の備えを提言いただきました。

高齢者にやさしい町をつくるには

町長

時代の技術と社会の知恵で誰もが元気に生活できる町に

高齢者にやさしいまちづくりを

質問 飯豊町の課題を考えた場合、『高齢者にやさしいまちづくり』が最も大切ではないか。その具体策として一番目は自動運転の車を町内に配置してはどうか。二番目はネットを使って買い物ができるように。三番目は都会のお年寄りと交流して移住を促進することを提案したい。

町長 一番目の自動運転車は、現在はまだ技術の面から不可能ではあるが将来は実現されると思う。二番目のネットを使っての買い物



いつまでもいきいきと

は、すでに電話で注文し自宅に宅配する支援事業を商工会と連携して行なっている。高齢者の方々もインターネットを使えるよう、環境を整えて行きたいと思う。三番目の高齢者の移住について、町の『総合計画』では年齢や性別に関わらず、みんなが助け合い元気に生活できるまちづくりを行うこととしている。



添川小学校 6年
安仲 翔 議員

再質問

ぼくのクラスは、すでに電話で注文し自宅に宅配する支援事業を商工会と連携して行なっている。高齢者の方々もインターネットを使えるよう、環境を整えて行きたいと思う。三番目の高齢者の移住について、町の『総合計画』では年齢や性別に関わらず、みんなが助け合い元気に生活できるまちづくりを行うこととしている。

議員からひとつ

少子高齢化社会の時代に高齢者を大切にすることはとても大切です。地域のなかでもそのような取り組みが必要だと思います。

黒獅子祭り競演会の開催を通し観光客の増加と町の経済を豊かに

町長

地域にもたらす効果の期待と無病息災を考え獅子舞い競演検討

黒獅子祭りの競演で観光客増と経済効果を

質問 飯豊版黒獅子祭り競演会の開催により、町の観光地をPRし、観光客増加や町の経済効果につなげては。

町長 めざまみの里まつりで黒獅子祭り競演会を開催すれば、集客数が増え地域へもたらす良い効果が期待される。また、五穀豊穡・無病息災を願う神事であり、昨年のような災害が二度と発生しないためにも、黒獅子祭りの競演会の開催を検討したい。



にぎわう黒獅子祭りの様子

災害募金を募っては

再質問 町長の答弁では、黒獅子祭り競演会の開催には経費や時間の確保と調整が必要とのことだが、めざまみの里まつりのイベントに



手ノ子小学校 6年
井上歩武 議員

合わせることで復興獅子舞い競演会として、災害募金と厄払いの意味で獅子舞いを行えば解決するのではないかと。町長 井上議員の質問を契機に検討するように、実行委員会に提案する。令和6年度の実施に向けて話を煮詰められればと考える。

議員からひとつ

小中学生による獅子舞いや笛・太鼓の競演などもあれば、より多くの人が集まるイベントとなり、楽しく盛り上がりと思っています。

人口減少に歯止めをかけるため 黒獅子祭り競演会の開催を

町長

存続のためには女性参加や
地域に愛着がもてる取り組みを

人口減少でも獅子舞
を続けていくために

質問

人口減少がすす
めば、地区の伝統行事
である「黒獅子祭り」
も若い人の後継者不足
によって出来なくなっ
てしまうのではないかと
心配している。この
ため町の獅子を一同に
集めて「獅子舞競演会」
を開催することを提案
したい。

このことにより、町
内の若い人の交流が広
がり他地区の文化に触
れることができる。獅
子舞をきっかけに地元
に戻ってくる若者も増
え、人口減少を止める
ことができると思われる。



手ノ子小学校創立
150周年式典で披露

町長 町は今後も人口
が減り続ける予想で、
地域での様々な成り手
や後継者不足は大きな
課題である。

提案された黒獅子祭
り競演会はお祭りの継
続と、後継者不足や人
口減少対策など多くの
課題に対応した取り組
みだと思ふ。これから
は女性参加も検討して
みてはどうか。地域に



手ノ子小学校 6年
おおか かわら
大河原 魁 議員

よつては女性が太鼓や
笛などを担うようにな
つてきている。若い人
が地域に愛着を持てる
よう総合学習や地区公
民館行事などで、自分
の住む飯豊町を知る機
会を多く作り、一人で
も多くの人に町に残っ
てもらふ、町を離れて
も戻ってきたくなるよ
うにしていきたい。

議員からひとこと

地域や自分たちが
今考えていることを
具体的に取り上げた
提案でした。人口減
少対策の提案なので、
町はぜひ検討すべき
と思います。

子どもからお年寄りまで 楽しく過ごせるまちに

町長

多様な世代が一緒に活動し
交流できる場所の創出に努力

芋煮会などの
イベントを提案へ

質問

私たちは昨年10
月に老人ホームでコン
サートを企画開催し、
子どもが考える企画で
もたくさんの方が喜ん
でくれることを学んだ。
そこで芋煮会、ゴルフ、
ラジオ体操の開催を提
案したい。

町長 イベントを通じ
て知り合いが増えるこ
とで、災害等が起きた
際には助け合うことが
できると思うので、今
後とも様々なイベント
で、多様な年代が一緒
に活動し、交流できる



場所の創出に向けて努
力していく。また提案
の企画については、前
向きに検討させていた
だきたい。

再質問

町で行われる
イベントに、私たちが
考えたマスコットキャ
ラクター「いいでくん」
と一緒に、イベントを
開催してはどうか。そ
のためには、町のキャ
クターにしてほしい。
観光交流室長 町をP
Rするのにキャラクター
という大変強いコン
テンツ(価値のある中
身、または目的とされ
る中身のこと)ですの
で、デザインも見させ
ていただき、今後の取
扱いを検討させていた
だきたい。

議員からひとこと

皆さんが考えたイ
ベントやキャラクター
ーは、町を明るく元
気にするものです。
これからも応援して
いきます。



第二小学校 6年
ほりえ はな
堀江笑 永 議員

住みたくなくなる町 理想の町を考えて 若者が活躍するまちづくりを

町長

未来カフェに若者が集う
多くの人が集まる活動に期待

**若者の活動参加者
全国から募集しては**

質問 人口減少は若者が減っているからだ。

地域を元気にする活動の参加者を全国から募集してはどうか？

町長 今、『いいで未来カフェ』の活動を注目している。マルシェなどで少しずつ輪が広がっているので、今後地域を超えて大きくなってもらいたい。

企画課長 小中学生の皆さんも若い人たちと一緒に未来カフェで活動して町を盛り上げてもらいたい。



未来カフェマルシェで町を元気に

**若い人が楽しめる
農業体験に支援を**

再質問 農業体験の受け入れ、期間限定や機械のレンタルなどで十分な所得を得られれば若い人は集まるのではないか？

町長 近年農家が大きく減少しており農業に就く若者が少ない現状



添川小学校 6年
横澤蒼祐 議員

で、農業所得を上げることが課題。横澤議員から提案いただいた項目も含め考えていきたい。

農林振興課長 農業をやめる人がいるので耕作放棄地を出さないよう配慮している。多くの人に町の農産物を買って食べてもらうことが所得向上につながる。

議員からひとこと

いつか若い人が沢山集まるイベントをやってみてはどうですか。みんな応援してくれると思いますよ。

人口減少対策に若者を ひきつける働く場作りを

町長

地元定着に向けた環境整備や
企業育成に引き続き取り組む

**ホテルの一角や
空き家活用を提案**

質問 若者が町外に流出している原因に、魅力ある仕事がある町内や近隣に少ないことが挙げられる。そこで、ホテルの一角や空き家を活用したベンチャー企業

の誘致、またサテライトオフィスやテレワークスペースの確保によって、子育て世代の移住定住者の増加に繋がると思われるが町の考えは。

町長 サテライトオフィス企業の誘致は、町内で働く若者を増やす手段のひとつであり、その働き場所として、宿泊施設や空き家を活用することは、良いアイデアだと思う。若者や子育て世代が多様な働き方を選択できる環境の実現にむけて、積極的に検討しなければならぬ課題だと認識している。



テレワークスペースの確保を



飯豊中学校 3年
高橋瞭太 議員

再質問 若者の移住定住のために、他に考えていることは。

町長 自然農村文化と科学技術が融合するところが町のコンセプト（物事の基本的な方向性や一貫した考え方）となっている。このように考えて町づくりを続けていくことによつて、若者が魅力を持って町に定住し、若者をひきつける場になるのではと考えている。

議員からひとこと

若者の定住は大きな課題で、議会からも各種提案を行っていきます。

子ども議会を終えて

町制施行65周年記念事業として行われたいいで子ども議会の目的は、本町の未来を担う小中学生を対象に、子どもたちの夢のある自由で豊かな感性による幅広い意見・要望などを町政に反映させること、併せて子どもたちが町の仕事や議会の仕組みを理解し、町をより身近なものとして感じてもらい、地域づくりへ積極的に参加する気持ちを育てることでした。

この度の子ども議会を通して、少しでも目的に近づけることができたなら、嬉しく思います。そしてこの経験を周りの友達と共有し、住みよいまちづくりに関心を持ち郷土愛を深め、自分たちも地域づくりに積極的に参加し、さらに住み続けたいと思えるまちにしたいと思ってくれたなら本当に嬉しいことです。

最後に子ども議会の開催にあたり、各校の先生方をはじめ多くの方々のお力添えを頂き大成功に終わることができましたことに、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

各学校では「子ども議会」について 事前に話し合いが行われました



飯豊中学校 3年生



第一小学校 6年生



第二小学校 6年生



手ノ子小学校 4・5・6年生



添川小学校 6年生

お問い合わせ 飯豊町議会事務局 0238(87)0527

編集後記

昨年11月30日に子ども議会が開催されましたので、議会だよりの特集号を発行しました。子ども議会では、各小学校から2名ずつ、中学校から3名が議員となり、これからのまちづくりを考え、それを町に対し質問や提案をしたものです。当日、子ども議員の鋭い質問や提案する姿は大変頼もしく、将来の町づくりを託す期待も大きくなりました。(屋嶋記)

発行責任者

議長 菅野富士雄

発行

広報公聴常任委員会

委員長 遠藤 芳昭

副委員長 屋嶋 雅一

委員 舟山 政男

委員 松山 和好

委員 高橋 清彦

委員 横山 清彦